運航コース ＆ 東京港のご紹介

① 竹芝ふ頭

伊豆・小笠原諸島への安定かつ快適な足の便と島民への生活物資の輸送、島の特産物の受入れの基地として利用されています。

② 日の出ふ頭

1925年に完成した東京港で最も古いふ頭。現在は主に、浅草・台場等への水上・海上バスやレストラン船の発着地として利用されています。

③ 芝浦ふ頭

国内貨物の雑貨ふ頭として利用されており、主な取扱貨物は、セメント、紙類などです。

④ レインボーブリッジ

東京港の中心部である、有明・青海・台場方面と都心方向を結び、上層は首都高速11号台場線、下層は臨港道路、新交通システムの二重構造のつり橋です。

1993年8月に首都高速道路、臨港道路部分が開通し、1995年11月に東京臨海新交通臨海線「ゆりかもめ」が開通しました。



⑤ 品川ふ頭

北側（芝浦側）は、北海道と東京港を結ぶ定期航路の基地で、RORO船（※）が接岸し、主に新聞巻取紙、自動車などを取り扱っています。

南側（大井側）は、日本で最初のコンテナふ頭で、中国・韓国航路や東南アジア航路などの近海航路に利用されています。

※RORO船:ロールオン・ロールオフ船の略称。本船に備えられたランプウェイ（可動橋）を使い、トラックやシャーシーでそのまま積み込むことができる船

⑥ 大井コンテナふ頭

首都圏における国際物流の中心となる日本屈指のコンテナふ頭。大型コンテナ船が同時に7隻着岸することができます。

船会社が専用的にふ頭を借りており、世界各地の代表的な港と定期航路で結ばれています。



⑦ 中央防波堤外側コンテナふ頭

東京港で一番新しいふ頭です。近年のコンテナ船の大型化の進展やコンテナ貨物取扱量の増加に対応するため、2017年にY1バース（水深-11m、延長230m）、2020年3月にはY2バース（水深-16m、延長400m）を供用開始しました。

現在、Y3バースを整備中です。

⑧ 海の森

東京港に浮かぶ、ゴミと建設発生土で埋め立てられた「ゴミの山」に苗木を植え、美しい森に生まれ変わらせるプロジェクトです。

⑨ 東京ゲートブリッジ

中央防波堤外側埋立地と江東区若洲を結ぶトラス橋として2012年に開通しました。主要幹線道路へのアクセス向上による物流の効率化及び東京港内の交通渋滞の緩和に寄与しています。



⑩ フェリーふ頭

東京港と四国・九州の港を結ぶフェリー船舶の拠点となっています。取り扱っている貨物は、自動車など多種多様ですが、マイカー旅行者等にも利用されています。

⑪ 10号地ふ頭

東京港の主要な内貿ふ頭で、主として鉄鋼、自動車、紙・パルプを取り扱っています。

九州、沖縄とのRORO船による定期航路をはじめ、西日本各地と首都圏とを結ぶ国内航路の一大拠点となっており、全国的な中継輸送を効率的に行っています。

⑫ お台場ライナーふ頭

外貿在来船の主力ふ頭で、全長1.8km、15,000トン級バースが9バース供用されています。鉄鋼、各種機械、木材、紙など多種多様の貨物を取り扱っています。背後には多くの上屋、民間倉庫が整備され、ふ頭と一体的に効率的な荷さばきを行っています。

⑬ 青海コンテナふ頭

全長1,570m、5バース、コンテナクレーン12基を有する高規格コンテナふ頭です。5バースのうち3バースは大型コンテナ船に対応した規格になっています。



⑭ 東京国際クルーズターミナル

世界最大のクルーズ客船にも対応可能な新たな海の玄関口として、2020年9月に開業しました。

クルーズ客船を誘致し、魅力あふれる臨海地域の更なる賑わいを創出していきます。



⑮ 臨海副都心

面積442ヘクタールの埋立地に職・住・学・遊の機能が有機的に連携するバランスのとれた複合的なまちづくりを進めています。台場・青海・有明南・有明北の４つの地区に分け、それぞれの地区に応じた土地利用を図っています。

現在、臨海副都心のMICE（※）・国際観光拠点化を推進しています。

※MICE：多くの集客交流が見込まれる国際会議や展示会、イベント等の総称。



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会会場等

	会　場	競　技（種　別）	
		オリンピック	パラリンピック
A	海の森水上競技場	ボート、カヌー（スプリント）	ボート、カヌー
B	海の森クロスカントリーコース	馬術（総合馬術）	
C	東京ビッグサイト	国際放送センター（IBC）/メインプレスセンター（MPC）	
D	潮風公園	バレーボール（ビーチバレーボール）	
E	お台場海浜公園	トライアスロン、水泳（マラソンスイミング）	トライアスロン
F	選手村		